
ずっと、このままたよ

光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ずっと、このままたよ

【Nコード】

N0110Z

【作者名】

光

【あらすじ】

常磐亜紗美は、元気の良い活発な？歳の女の子。

ある日、クラスに男子生徒が転校して来た、彼の名は時田光孝と言う。

光孝は、頭が良くスポーツ万能なので、女子の中で告白する子もいたが。

「好きな子がいるから」と全員、断られた。

はたして、光孝の好きな子は・・・？

？ クラスに

朝7時。

ピピピピピ——イ。

目覚まし時計が鳴って、亜紗美は目を覚まし部屋を出て、洗面所で顔を洗いいりびング行き母親。

「おはよう」

「おはよう」

挨拶を交わし、座り朝食を食べて部屋でランドルを背負い。

「いつてきまーす」

家を出て、学校に向かい歩いていると肩を叩かれ、振り向くとクラスメイトの石橋麗子が立っでいて。

「おはよう、亜紗美」

「おはよう、麗ちゃん」

挨拶を交わし、学校に向かって歩いていると。

「ねえ、今日、転校生が来るの、知ってる？」

「知らない、なんで麗ちゃんが知ってるの？」

聞くと。

「昨日、職員室に行った時、ボードに書いてあったんの」

「ふうん、そうなんだ」

校門を潜り、教室に行きクラスメイトとしゃべっていると。

キンコンカンコン、キンコンカンコン。

チャイムがなり、担任が入って来て出席簿を教壇に置き。

「今日は、転校生が来ているので紹介します」

すると、生徒たちが騒ぎ始め出すと。

「静かにして下さい」

怒ると、生徒たちが静かになり廊下に向かって。

「じゃ、入って来て下さい」

1人の茶髪の男子生徒が入って来て教壇に立つと、担任がハワイボードにその男子生徒の名を書いた、時田光孝と。

「時田くんは、お父さんの仕事の関係でこの町に引っ越して来ましたが、まだ、わからない事があると知れませんでしたので、聞かれたら教えてあげて下さいね」

「はい」

返事をする。

「じゃ、時田くん、一言お願いします」

光孝の肩をポンと叩くと。

「初めまして、時田光孝です、よろしくお願いします」
頭を下げると、担任が。

「常磐さん」

「はい」

返事をする。

「あの子の隣に座ってくれるかな？」

「はい」

返事をして、与えられた席に行き隣に座っている亜紗美に。

「よろしくね」

「こちらこそ」

席に座ると、出席を取って授業を始めた。

放課後。

亜紗美がランドセルの中に授業道具を入れてみると、麗子が来て。

「亜紗美、帰ろう？」

「うん」

学校を出て、帰り道を歩きながら

「ねえ」

「うん、何？」

「時田くんって、結構イケてるよね？」

「そうかな？」

首をかしげると。

「私、ああいう男の子、タイプなんだ」
浮かれながら言い、麗子の家の前で。

「じゃあね」

「うん、バイバイ」

別れ、家に帰った。

？ キュン

光孝が転校して来て、5日が過ぎた。

頭も良く、スポーツ万能な光孝はクラスの人気者になっていた。

「いつてきまーす」

家を出て、学校に向かい歩き校門の前で、麗子に逢い。

「おはよう、亜紗美」

「おはよう、麗ちゃん」

挨拶を交わし、校門をくぐり教室に行き担任が来るのを待っていると、チャイムがなり担任が来て出席を取り算数の授業を始め、問題を書き。

「じゃ、この問題を時田くん解いてくれないかな？」

「はい」

席を立ち、ボードに書いてある問題を解き始め全問解くと。

「皆さん、合っていますかーあ？」

「合ってまーす」

一斉に言つと。

「ありがとうございますよ」

席に戻ると、授業を続けた。

放課後。

ランドセルの中に授業道具を入れていると、麗子が来て。

「亜紗美、帰ろう？」

「うん」

学校を出て、帰り道を歩き麗子の家の前で。

「宿題、やろうよ？」

「うん、いいよ」

別れ、家に帰って宿題の教科書と筆記道具を手提げに入れて、キ

ツチンに行き。

「麗ちゃん家で、宿題して来るね」

家を出て、自転車に乗って麗子の家に向かった。

家に着き、自転車を降りてドアチャイムを押すと、麗子が顔を出し。

「どうぞ」

「おじゃまします」

上がり、部屋に入ると小さいテーブルが出ていて座り、宿題を始め1時間後。

「終わった」

ノートを閉じて、亜紗美が手提げにしまっている。

「ジュース、持ってくるね」

部屋を出て行き、本棚からマンガ本を出して見ているとジュースとお菓子を持って入って来て、グラスに注ぎ目の前に置くと。

「ありがとう」

見ながら飲み、全部見終り立ち上がり。

「帰るね、バイバイ」

麗子の家を出て、自転車乗って帰る途中で、キョロキョロしている光孝が見え。

（どうしたんだろう？）

光孝の元に行き。

「どうしたの？」

「あつ！ 常磐さん、文房具店ってどこにあるか教えて？」

「いいよ」

文房具店に向かった。

文房具店に着き、自転車を降り店内に入り2人は、ノートが置いてある場所に行き1ずつノートを持ち亜紗美はシャープペンの替え芯を持って、レジで支払いをして店を出て自転車に乗ろうとした時、

笑みを浮かべ。

「ありがとう、助かったよ」

礼を言われた時、小さな胸がキュンと締め付けられる感じがした。

（何、この感じ？）

胸を押さえていると、心配そうな声で。

「だ・大丈夫？」

「何でもないから、じゃあ、明日」

別れ、家に帰りながら。

「あれって、何だったんだろう？ まっいいか」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0110z/>

ずっと、このままたよ

2011年12月3日21時46分発行